

《 谷 中 地 区 町 会 連 合 会 》

日時：9月6日（金） 午後3時から（会 場：谷中区民館）

◇「子ども広場」を「みんなの広場」とする住民からの切なる願い

質問	回答	対応
昨年度に引き続き、町会内にある広場についての要望です。 住民の意見を直接聞くべく、昨年末から約1か月かけて聞き取り調査を行いました。近隣のお宅とお子さんのいるお宅を訪問し、また役員からも文章で回答してもらいました。 以前、区のアンケート結果では、子ども広場に一部が反対しているとの回答があり、これまで「住宅地の中にある広場だから問題」と聞いていましたが、今回の調査で住民の多くは、「住宅地の中にある広場だからこそ安心」と考えていました。子供しか使えない広場ではなく、多世代が同じ空間を共有することで、子供や高齢者の見守りができると、多くの住民が考えていました。 今一度、「子どもの広場」から「みんなの広場」への移行を検討していただきたく、住民をあげて切にお願いします。	当遊び場については、現在、子供の遊び場を使用することを目的に寛永寺からお借りしています。 この度、町会で近隣への聞き取り調査を実施され、多世代が利用する「みんなの広場」としてご意見をいただいたことから、活用方法について検討してまいります。 引き続き、ご相談させていただきますので、よろしくお願いいたします。	☆

◇災害時のペットの避難場所について

質問	回答	対応
今年１月には能登半島地震があり、我々もいつ首都直下型地震が襲ってくるのかと不安でいっぱいになります。 当町会では、ペットを飼っている家庭が多く見られます。別件で「子ども広場」についての個別調査をした際、「災害時に子ども広場をペット専用に開放してほしい」との声が多く聞かれました。 災害時の行動として、環境省は飼い主とペットと一緒に避難する「同行避難」を推奨しています。台東区も同様かと思われます。 避難所には動物アレルギーの方もいれば、動物嫌いな方もいらっしゃいます。また、体の大きな動物もいれば、不安で吠えてばかりの動物もいると思います。 そこで、避難所とは別に災害時のペットの専用受け入れ場所（同伴避難）として、「子ども広場」を活用できないでしょうか。大きな地震が起こった今、ペットの避難について、皆でもう一度真剣に取り組むべきときが来ていると思います。	区では、ペットと一緒に避難所へ避難することは可能としています。一方で、人とペットが同じ居室で生活することは、他の避難者への配慮から難しく、居室とは別の場所での飼育をお願いしています。 区内のオープンスペースには限りがあり、災害が発生した場合には様々な活用が想定されます。 ペットの受入場所など、災害時のオープンスペースの活用については、今後の課題とさせていただきます。	△

◇町会内掲示板の更新または改造について

質問	回答	対応
現行の掲示板の問題点として、 ・雨風により掲示物が濡れる、剥がれる。 ・掲示物が剥がれることにより、画びょうも飛んで、道路に落ちて危険である。 ・落ちた画びょうによって、サンダル等の履物に刺さり、怪我をしたり、自転車のタイヤがパンクしたりする事例が起きている。 などがあげられます。 その解決策として、新たな掲示板への更新をお願いしたいです。具体的には、近隣区等で見かけるボックス型の掲示板に更新していただき、掲示物はマグネットで貼り付ける方法を採用していただきたいです。なお、予算工事日程等もあることから一括とは言えませんが、一基ずつでも良いのでお願いしたいです。 もし、新設が不可能な場合は、既存の掲示板を改造していただきたいです。具体的には、両開きドア（観音開き）を取り付けて、風や雨の対策をし、クリアプラスチックボードに木枠を取り付けて、現行の掲示板に蝶番で取り付ければ、掲示方法は現行のままで行うことができると思います。また、止め具は掛金で南京錠にて封をすることもできると思います。	日頃より、区政情報の周知にご協力いただきありがとうございます。町会の掲示板は、区民の皆様への周知手段として重要な役割を果たしていると考えています。 これまでも風雨に耐えられる紙の使用や、サイズの統一、ユニバーサルデザインの画びょうの配付など工夫をしてまいりました。 引き続きアクリル保護板付きや、マグネットタイプの掲示板への建替えの検討に加え、皆様からのご意見を伺いながら、より貼りやすい、より剥がしやすい方式の検討も進めてまいります。 ※令和7年度より、アクリル保護板付きのマグネット式掲示板へ順次更新をしていく予定です。（区民課）	◇

◇掲示板の新設のお願い

質問	回答	対応
掲示板の現行のものは、風雨で掲示物が飛んだり、破けたりと不都合があります。一方、近隣区では、ガラス戸のある掲示板に変わっています。 台東区も新設の予定はあるのでしょうか。ぜひ、やっていただきたいです。	同上	◇

◇被災時の瓦礫置き場、遺体置き場について

質問	回答	対応
区では発災後、瓦礫置き場や遺体置き場をあらかじめ決めておく必要があると思いますが、どのように取り組むのでしょうか。	まず、瓦礫置き場について、区では災害廃棄物処理計画を策定し、災害発生に伴う「ごみ」を一時的に集積する仮置き場を設置することを定めています。仮置き場は、区内で候補地を選定していますが、それらの場所は水害や地震など災害の種類や状況により、避難や救助活動などの様々な用途で使用する可能性もありますので、発災後の状況に応じて対応してまいります。 次に、遺体安置所について、発災時、遺族の心情に配慮した適切なスペースを確保できるよう、警察や関係機関などと調整のうえ、設置場所の想定をしています。万が一、災害が起こった際には、自衛隊や警察などと連携し、遺体の搬送や遺族への引き渡しを円滑に実施していくとともに、区民への情報提供を行なってまいります。	—

◇災害時における準備のための備蓄倉庫設置について

質問	回答	対応
谷中地区は、高台で坂を上がった所もあり、支援物資の運び込みには大きな懸念があります。そこで、各家庭における備蓄は急務であると考えますが、住民の高齢化や家屋の事情により、十分な備蓄ができないのが現状です。 このような状況の中、各町会における備蓄が理想的ではありますが、備蓄倉庫を設置する場所について困窮している現状です。 そこで、谷中5丁目の遺贈地については、故人より「地域のために活用してほしい」と聞き及んでいます。その中で、隣接地に沿っていくつか町会の倉庫が置けるスペースをお貸しいただき、各町会の負担で備蓄倉庫を用意できればと考えていますので、ご検討いただければと思います。	谷中5丁目の遺贈地は、当該地所有者の遺言や地元協議会でのご意見を参考に、「日常的には地域住民や来街者が集う、憩い・ふれあいの広場として、地域の魅力向上につなげる」こと、「災害時は防災に資する機能を提供する」ことを活用方針として決めました。 現在、その活用方針を踏まえたご提案をいただくプロポーザルを実施しており、今年の12月には設計者と運営事業者の公表を予定しているところです。 区としても地域の安心・安全を考えるうえで、「防災」は非常に重要な視点と考えており、プロポーザルでは、遺贈地への防火貯水槽の設置を必須としました。また、初期消火に必要な資機材を格納するための防災倉庫の設置を予定しています。 ご提案いただきました各町会の備蓄倉庫設置に関しては、地域の安心・安全を高めるうえで有効な視点と考えますが、敷地が限られていることから難しいと考えています。	△